

「街に菜の花を咲かせよう 2.12 菜の花忌運動」～地域の皆さんと共に～

(布施高校 校長 山口 武 史)

本校のすぐそばにある司馬遼太郎記念館を中心に、本校を含めた地域の諸団体が協力して、2004年夏から「菜の花忌運動」が始まりました。「菜の花忌運動」とは、作家司馬遼太郎さんの命日である2月12日前後にシンポジウムや催しを開催すると同時に、司馬遼太郎さんが愛した菜の花を街一杯に咲かせようとする地域ぐるみの運動です。この取組みにより、2月～3月にかけて、本校の最寄り駅である近鉄奈良線の八戸ノ里駅から小阪駅一帯の道路沿いや空き地に菜の花が美しく咲き誇り、東大阪の街が菜の花の香りとあたたかな黄色に包まれます。遠方から見に来られる方も含め、多くの方が「一足早い春の訪れ」を楽しみます。

今年度も、本校を含めた38団体の代表が集まる「菜の花会議」が7月から定期的で開催され、菜の花の種まきや育成等についての打合せを進めてきました。さらに校内においても、10月下旬より、司馬遼太郎記念館ボランティアの方々に指導していただきながら、1年生の菜の花委員(今年度から設置。18名)や自治会執行部員が、校内の花壇等に菜の花の種まきや水やりを定期的に行っていました。

校内の菜の花が咲き始めた2月2日には、本校の菜の花委員や自治会執行部員が司馬遼太郎記念館を訪問し、菜の花のプランター等を設置。この様子は、当日の朝日新聞・サンケイ新聞夕刊や翌日の読売新聞朝刊にも掲載されました。そして迎えた2月3日。休日にもかかわらず、本校の食堂には、地域の諸団体から70名余りの方々と、本校から生徒・教職員70名余りが参集。今回参加した本校生は、自治会執行部員・菜の花委員・硬式野球部員やラグビー部員が中心。諸団体紹介のあと、本校周辺へのプランター設置作業を全員で行いました。

当日は天候にも恵まれ、大型トラック等も活用し、作業をスムーズに進めました。設置後、生徒たちは水やり作業などに取り組んでいました。作業中、地域の皆さんからは「布施高生は機敏によく動き、本当に助かる」とのお声を数多くいただきました。また、「菜の花忌運動」に初めて参加した1年生の女子生徒からは、「今までにない体験ができ、とても楽しいです」との感想も聞かれました。2ヶ月後の3月末には、本校に地域の皆さんが再び集まり、プランター撤収作業を本校生たちと共に予定しています。



(「菜の花忌運動」を紹介した街のプレート)



(司馬遼太郎さんの書斎前での本校生)

この運動により、2月から3月にかけて、東大阪の街は一面の菜の花で美しく飾られます。本校南グラウンド周辺は「菜の花ロード」とも呼ばれ、本校生や地域の皆さんの心をなごませてくれます。加えて本校では、1年生全員が「総合的な学習の時間」等を活用して、毎年、司馬遼太郎記念館を訪問しています。本物に触れることで司馬遼太郎さんの文学に親しむ機会を作り、より豊かな心を醸成したいと考えています。

また、1月末には、吹奏楽部や軽音楽部の生徒たちが、ユニセフ募金のためのコンサートを3日間にわたって開催。今年度は、司馬遼太郎記念館をはじめとした地域の文化や風土を世界に発信することを願い、「ユネスコスクール」へ加盟申請を行なっています。

これらの活動を通して、生徒たちは社会貢献のために活動することの大切さを学び、同時に地域の皆さんから、地域活性化に寄与する学校として信頼を得ています。今後も地域連携を積極的に推進していきながら、地域に貢献し、本校の活性化にもつなげていきたいと考えます。『豊か・活発・快活・元気一杯』等の花言葉がある菜の花と共に、布施高生たちは、日々たくましく成長を続けています。



(菜の花のプランターを満載したトラック)



(本校食堂での作業前ミーティング)



(地域の皆さんと共に街にプランター設置)



(学校周辺の歩道にプランター設置)